北京大学の大学院教育における幾つかの問題点

――その位置づけ・規模および改革

冀 建 中　　北京大学
（田中千寿訳）

私のこの講演は，研究報告というわけではありません。私は，北京大学で30年間教鞭をとってきた大学院の指導教員として，北京大学の大学院教育及び中国の大学院教育の変動のプロセスを体験し，その中に存在する多くの現実的な問題を比較的わかっているだけです。そしてこれらの実情は，多くの研究報告では，しばしば数字と様々なモデルの中に埋没してしまうのです。とりわけ外国の方にとって，中国の問題は，要領を得ないものでしょう。そこで，私のこのささやかな講演を通じて，ご来場の皆さまに，北京大学及び中国の大学院教育の具体的な状況を少しでも理解していただければ幸いです。また，講演後の質疑応答では，皆さまのご質問に的確にお答えできればと思います。

一　スタートの遅れ・中断・飛び越え方式が中国及び北京大学の大学院教育の歴史的特徴である

西洋の大学院教育は，現在までですでに200年の歴史があります。これに比べると，中国の大学院教育は，ほぼ100年遅れています。中国の現代的意味においての大学院教育は，北京大学に始まります。

北京大学は，1898年に創立され，1917年11月に大学院生を受け入れ始めました。1918年に，文・理・法の３科の研究所が創設され，合わせて148名の大学院生がおりました。1917年から1948年まで，北京大学は断続的に400名余りの大学院生を受け入れました。1949年から1966年まで，北京大学の大学院教育は，依然として断続的で，その間に反右派運動（1957年）・教育大革命（1961–1963）による中断がありました。そういうわけで，17年間（1949–1966）ほどで，1,100名余りの大学院生しか育成しておりません。その後，皆さんご存知の文化大革命があり，大学院教育は，12年間（1966–1978）にわたって中断しました。1978年，北京大学は大学院生の受け入れを再開しました。1981年には，「国務院」の承認を受け，博士・修士の学位を与えることのできる大学となりました。1984年10月，「北京大学研究生院」ができ，全学の大学院生の育成・教育・管理に責任を負うことになりました[1)]。

以上のようなことから，中国及び北京大学の大学院教育は，ここ30年間になってようやく持続的な発展をするようになっていることがおわかりになると思います。このような状況をもたらしたものは，とりわけ教育のたび重なる中断は，戦争と政治によるものです。多くの人が，これはすでに過ぎ去った歴史だと考えています。この歴史に対して，真摯な再認識をまったくしておりません。このような歴史のタイプは，全世界の教育史においてあまり見ることができず，その影響はまったく消滅していないと言うべきなのです。それは，２世代の人々を犠牲にしただけではなく，おそらく更に多くの影響をもたらしていることでしょう。今日の多くの問題は，依然としてこの歴史と切り離せないとても複雑なものなのです。教育は持続的発展が非常に大切で，それがあってはじめて前進できるものです。また，政治が全てを管理するという考え方は，今でも相変わらず中国の教育に根深い影響を与えています。大学院教育では，学部教育よりもさらにこの考え方が強いのです。例えば，入試科目において，「政治」は依然として必須科目です。この点は，後でまた説明します。

中国の大学院教育は，飛び越え方式の発展によって歴史がもたらしたつけを返しています。これは，やむを得ない方法ですが，これによっても多くの問題が起きています。まず，こういった飛び越え方式のスピードをご説明します。

北京大学では，この30年で，合わせて63,500名余りの修士修了生がおり，15,200名余りの博士学位取得

最近５年間の北京大学大学院学生数（修士）

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
学術タイプ修士	2,563	2,578	2,458	2,571	2,717
専門タイプ修士	933	1,143	1,349	1,454	1,533
医学修士	461	475	577	633	658
合計	3,957	4,196	4,384	4,658	4,908

者がおります（2011年7月時点）。そしてその内の多くは，2000年から2011年なのです。

始まりが遅く，幾たびかの中断があり，さらに飛び越え方式の発展になったので，そのなかに含まれている問題およびもたらされた無秩序状態は，将来何十年かの継続した努力で克服し解消しなくてはならないものです。

二　指導教員集団が成立する３つの段階

中国の大学院教育の発展の歴史的状況がもたらした問題は，まず指導教員集団に表れました。問題の説明を少しわかりやすくするために，指導教員集団の状況を3つの段階に分けてお話ししましょう。

20世紀の80年代：指導教員集団は，49年以前に大学・大学院を卒業した人々と，49年以後に入学して66年以前に大学・大学院を卒業した人々とで構成されていました。前者は，人数は多くありませんでしたが，重要な位置にあり，指導教員集団においてリーダーであり，学識が深く東西の学問に通じ，外国で体系的な教育を受け，博士の学位を取得しているような人達もおりました。例えば，哲学系の馮友蘭・洪潜（1930年代オーストリアウィーン学派のメンバー）・王憲均・熊偉（ドイツの哲学者ハイデッガーの学生）などです。自然科学の分野でも，多くの傑出した学者がおりました。これらの人々は，1949年以後，資産階級の反動的学術権威として長らく抑圧され，1978年になってようやく，自らの理想を実現したり，現場での教育をできるようになりました。彼らの弱点は，大学院生を指導した経験がなかったこと，その上すでに高齢であったことです。しかし，彼らには，学問に対する真摯な態度と献身的な精神がありました。その大多数は，中国で最も早い時期に，海外で学問を修めて帰国して，中国の20世紀の学術界で重要な位置にあり，自然科学の多くの学科の創設者なのです。彼らは確かに優秀な学生を育てました。1949年以後になると，とりわけ1957年の反右派闘争以後に卒業した指導教員は，その時代からの制約が大変に大きくなります。長年の政治運動による妨げ，教育思想と教育内容の強いイデオロギー化，これらが彼ら自身の学術水準を引き下げました。これらの人々自身の多くは，体系的な大学院教育を受けていません。彼らの長所は，働き盛りで，自身の足らない部分を知っており，学ぶ気持ちがあったことで，学生と共に学び共に前進していました。しかしながら，その基礎の不十分さが，彼らの学術の達成度と深みを決めていました。これも言うまでもなくその教え子のレベルに限界があることに影響していたのです。

20世紀の90年代：この段階では，老先生たちはお亡くなりになるかご高齢や健康問題のために教鞭をとれない状態です。この時期の指導教員集団は，1949年から1966年に卒業した教員と1978年以後に新しく育成された第1グループといえる博士・修士で構成されます。先に述べたように，この2組の人たちは，共に学び成長したのです。1978年以後の第1グループの大学院生の初期の学び方も，理想的とは言えないものでした。これは，中国及び北京大学の指導教員集団の最も弱い時期といえるでしょう。この時期，特に北京大学のような中国の一流大学は，外国で博士学位を取得した大学院生を招きました。彼らは中国の改革開放後の第1期の留学生です。彼らは苦難に満ちた留学生活を送り，体系的で厳格な学術訓練を受け，北京大学に強く招聘されて帰国しました。その代表は，閔維方・趙敦華・陳章良・林建華・涂平・張維迎らです。彼らは皆その後，各学科のリーダーや重要な学部のリーダーになりました。面白い現象があります。彼らは，中国で教育を受けた大学院生と同世代で，多くの人が学部の段階では同窓です。大学院生としての異なる経歴が，彼らを区分けするのです。最初，これらの海外から帰国した留学生は，「海帰」と呼ばれました。その後，あざけりをこめて「海帰（hai3gui1）」を「海亀（hai3gui1）」と呼び，留学経験のない教員を「土鼈」と呼びました[2)]。この2種類のあだ名の出現は，留学から帰った教員が，中国のそれまでの教育体系に対して，挑戦し始めたことを表しています。多くの人々はこの2組の利益闘争を見て，中国の旧い教育体系の改革が急務であることを蔑ろにしてしまいまし

た。しかしながら，「海帰」の人数は少なかったので，主流派となることはできず，こういったいざこざはまだ明らかではありませんでした。

21世紀の10年代：この時期の指導教員集団は，主に改革開放以後，博士学位を取得した教員で構成されています。留学した人もおり，国内で教育を受けた人もいます。2000年以後，国内の急速な経済発展によって，多くの90年代に海外で学位を取得した学生が帰国して指導教員集団に加わりました。これらの教員は良いバックグラウンドを持ち（学部は中国の有名大学），また良い訓練を受け（海外の有名大学で学位を取得），国際的な教育方式とリンクしており，留学生（「海帰」）のパワーを大きくしました。「海亀」と「土鼈」との争いも新しい段階を迎えました。その記念碑的な事件は，北京大学が2003年に行おうとした「教育改革」です。その陰の推進者は，当時，大学の共産党委員会書記であったスタンフォード大学を卒業した教育学博士の閔維方と，好戦的な光華管理学院副院長でオックスフォード大学の経済学博士の張維迎です。改革の主な対象は，北京大学指導教員集団の中で良い教育のバックグラウンドがなく，さらに教授になっていない教員です。これらの人がキャリアに寄りかかって次々と指導教員集団に入ることを阻止し，さらにできれば北京大学を去ってもらえるようにすることです。この改革は最終的には失敗しました。その原因は多種多様です。ただ客観的には北京大学が全面的に指導教員集団の質を高める機会を失わせました。この改革の成果は，近親繁殖に反対することを理由として，北京大学を卒業した博士をそのまま大学に残して教員にできないよう規定したことです。北京大学のような学校にとって，これは今後の教員の主な供給先は海外留学からの帰国組（「海帰」）ということになります。今日の北京大学では，新しい教員はほとんどみな「海帰」です。北京大学哲学系を例にとると，65名の教員のうち，「海帰」は18名，さらにそのほとんどが45歳以下，45歳以下の教員での「海帰」の比率はすでに60％に上ります。2003年のあの国内組と海外組との争いは，老人と若者との争いと見なすこともできます。こういった闘争は今日，北京大学のキャンパスで相変わらず続いています。中国の文化的伝統と政治的伝統とのために，老人による政治は大学の中でも深刻なのです。その大学院教育での表れは，北京大学では修士の学生を指導できることを，とりわけ博士の学生を指導できることを，資格として扱っており，これらの資格を得るのには長いプロセスが必要だということです。これは新しい世代の「海帰」が大学院教育に影響力を持つことに対していくらかの制約となり，これらの大学院での訓練の経験がある新しい教員が大学院教育の体系に直接的な影響を与えることを阻止するのです。さらに，新しい教員が昇格するには，教授たちの投票を経なくてはならず，このことも若い教員が周りに気を配って思いきったことができないようにさせ，改革の意見を述べにくくさせる要因なのです。新しい教員が古い教員を変えるのか，それとも古い教員が新しい教員を変えるのか，今の北京大学では相変わらず問題なのです。

もちろん10年後には，北京大学の指導教員集団は「海帰」だけで構成されることでしょう。我々の大学院教育は全面的に国際化しはじめているといえます。

三　修士教育の目標は精鋭教育なのか大衆教育なのか，科学研究の人材を育成するのか多様化した学部卒業後の職業教育なのか，これが今日の北京大学大学院教育の大きな問題である

中国の大学院教育は，初めは精鋭の教育と位置づけられ，学生の科学研究の能力を養うことを強調していました。「中華人民共和国学位条例」によると，修士の学位を授与されるには，その専門のしっかりした基礎理論と体系的な専門知識を身につけ，科学研究に従事できる能力あるいは専門的技術の必要な仕事を単独で担うことのできる能力を具えていなければなりません。北京大学について言えば，この目標はさらにはっきりしています。

修士教育について，このような現実にそぐわない目標を立てていることは，やはり中国の大学院教育の発展のあの奇妙な歴史に原因があるのです。

改革開放の初期，各分野の人材が非常に不足していました。修士教育が精鋭の教育になったのも合理的なことでした。この目標に合わせて，大学院生の期間は3年とされました。さらに，80年代の国内で学んだ修士は，卒業後ほとんどが確かに科学研究と教育の仕事につきました。博士教育の発展および修士教育の大規模な拡張につれて，こういった精鋭教育の目標およびこれと合わせた学科の構造と制度は，本来ならば速やかに調整されるべきでした。しかし，中国全体の教育改革の歩調は遅く，教育の資源を分配する権利は一極に集中しており，大学――北京大学を含む有名高等

教育機関には，充分な自治権がなく，これらの問題は解決されていません。その上この数年，学部生の就職難を軽減させるために，大学院教育は引き続き盲目的に拡張され，質はさらに精鋭教育の目標に到達しようもない状態になっています。実際，大学院卒業後の進路も，どんどん学部卒業生と同様になってきています。実のところ，中国の学部生と大学院生との就職問題は，教育改革の遅れ・教育の構造・専門の設置の仕方・目標の制定と社会のニーズの食い違いによって引き起こされているものなのですが，それにもかかわらずこういった時代遅れのモデルを拡大するという方法で問題を解決しようとしており，その結果は大学院生の就職が学部生よりさらに難しいというだけなのです。

現在，「教育部」は，この問題を解決する考え方として，修士教育を2種類のタイプに区分して，1つは学術タイプの修士，もう1つは専門タイプの修士，前者は3年間で後者は2年間とし，さらに各大学に専門タイプの修士の育成規模を拡大するように求めています[3)]。以下は，北京大学の状況です。

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
学術タイプ修士	2,563	2,578	2,458	2,571	2,717*
専門タイプ修士	933	1,143	1,349	1,454	1,533

このような改革の考え方は，おそらく中国全体の大学院教育に合っており，大学院教育が精鋭教育から学部卒業後の職業教育へと転換する過渡的な状況であるといえます。ただ，中国では大学間の実際の差異が大きく，各大学の自治権の問題を解決しなければ，どのような改革も多くのマイナス面をもたらすことでしょう。

例えば，どの専攻が専門タイプ修士を育成できるのかの決定権は，「国務院学位弁公室」にあり，申請と認可の手続きは非常に複雑です。現在，専門タイプ修士は学費を徴収しているので，多くの大学はこういった学生を募集する資格を持つことは，収入を得る道であると見なしており，どのように専門タイプ修士を育成するのかについては充分に研究されていません。北京大学は現在合わせて14の専門タイプ修士の専攻があり，2012年の募集予定と学費の標準は以下の通りです[4)]。

ここから，多くの問題がわかります。第1に，北京大学でこの数年急速に増えた専門タイプ修士は，いくつかの専攻だけに集中しています。「工商管理」と「法律碩士」であるか，「軟件工程」と「通信工程」なのです。後者の2つの専攻は，「北京大学軟件与微電子学院」がその育成に責任を持ち，この学院の指導教員集団の80％は国内外のIT企業の専門家と学者とが兼任しており，北京大学の教員は20％を占めるだけです。まるで北京大学の付属機関のようなのですが，その規模の拡大が北京大学の統計データに反映され，急速に専門タイプ修士の規模を拡大しているかのような錯覚を起こさせているのです。第2に，北京大学には合わせて242の専攻があり，この14の専攻は代表的であったり普遍的であったりするわけではないということです。第3に，これらの専攻は全て，北京大学の有力な学科ではないということです。というわけで，現在の北京大学はやはり，学術タイプ修士を育成することを主眼としていると言えます。

専攻	募集人数	学費（万）
工商管理 MBA	450	13.8
公共管理 MPA	20	6
軟件工程	475	4–6
電子与通信工程	175	4
法律碩士	260	6.6
漢語国際教育	30	3.2
応用心理学 MAP	40	5.2
新聞与伝播 MJC	20	2.7
翻訳（英・日）MTI	60	口訳：8 筆訳：5
社会工作	20	2.7
工程管理 MEM	50	9.9
応用統計	20	6
歌劇表演芸術	8	3

北京大学は，「碩博連読」（修士第3学年で優秀者を選抜し直接博士に進学させること）という方法によって修士の育成で精鋭教育を達成できないという問題を解決しようとしています。しかし，全体の制度が変わっていない中で，実行するのはやはり難しいのです。一部の「院」や「系」では，比較的徹底して行っています，例えば「光華管理学院」では，推薦で試験が免除になるすべての学生に「碩博連読」を適用しています。

四　志願者の質は北京大学大学院教育の質を高めるネックである

学生募集の規模の拡大につれて，志願者の質の問題が北京大学の大学院教育の質に影響を与える障害とな

ってきています。北京大学について言えば，志願者の問題は多岐にわたります。

1．北京大学の学部生，特に伝統的に有力な学科の学部生は，卒業後，海外への留学を選択します。例えば，数学・物理・化学・生物などの学科では，海外へ行く学部卒業生はしばしば50％以上になります。
2．中国の教育の発展の激しいアンバランスさ。国家の教育投資の一極的集中が，さらにこのような不均衡を激しくしています。中国には一流総合大学の数が少ないので，北京大学に優秀な志願者が安定的に集まりません[5]。
3．北京大学自身，国際化のレベルは比較的低く，高い水準の外国の学生を引き寄せられません。
4．試験の方法が時代遅れであることとイデオロギーの色合いが比較的濃厚であることも，優秀な学生の流出をもたらしました。現在の試験の方法は，統一試験と専門試験の2つに分かれています。統一試験科目は，政治と外国語が各100点で，合計200点。専門試験は，各専攻の研究室が出題し，2科目，合計300点。合格の基準については，政治と外国語は「教育部」が合格ラインを決め，専門科目は及第点を取らなければなりません。その上で，総合点によって受験生を点数順に並べ，合格者の120％の人数を2次試験受験者として，その名簿を作ります。2次試験は，研究室が行い，ふつう面接の方法を取ります[6]。

志願者の問題を解決するために，北京大学は主に推薦入学を拡大する方法を取り，夏にサマーキャンプを行うなど，様々な手段を講じ，優秀な学生に試験を受けさせることなく直接大学院へ入学させ，彼らを残らせるようにしています。

以下は，この5年間の北京大学のそれぞれの方法での入学者数です[7]。

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
推薦入学者数	1,384	1,515	1,752	2,038	2,247
試験による入学者数	2,573	2,681	2,632	2,620	2,657
受験者数	19,238	19,235	18,767	20,403	20,136
試験の合格率（%）	13.74	13.94	14.02	12.84	13.20

推薦の比率を増やし，北京大学はやや問題を解決しましたが，社会からは公平かどうかという批判も受けました。

志願者問題の解決は，最終的には中国の教育水準の全体的なレベルアップに頼ることになるでしょう。数年前は，まだ中国の教育界では，中国の重点大学の学部生教育は，海外の大学よりも良く，大学院教育だけがレベルが低いと考えられていました。今は，こういった見方も疑われています。もし学部生教育も国際レベルになっていないなら，大学院教育の志願者については，さらに深刻なことでしょう。

以上は，私が中国及び北京大学の大学院教育について戸惑いを感じていることです。多くの問題は，北京大学単独では解決できないものです。中国の教育改革は，焦眉の急なのです。

司会：どうもありがとうございました。北京大学の歴史から始まって，先生ご自身が体験されたこの30年のことを非常にわかりやすく説明していただきました。とても得難い機会でした。質問したいことはいろいろおありかと思います。時間は限られておりますが，いかがでしょうか？

Q：大変に興味深いお話をありがとうございました。先生が初めにおっしゃったように，統計的なデータというのは我々もわかるんですが，やはりその実態というのはそこにいらっしゃる方のお話を聞いて初めて理解できることがたくさんあったと思います。たくさんお尋ねしたいことはあるのですが，2つだけ質問させていただきたいと思います。北京大学で海外から帰国された教員が増えてきているということでしたが，それは名古屋大学でも同じで，日本関係以外は留学経験がなくて教職に就くということは今ほとんどないんじゃないかと思います。ただ一方で依然としてよく文部科学省から指摘されるのは，外国人の教員がいない，もっと増やせということなんですが，北京大学での外国人教員の割合はどのようなものでしょうか，或いは制度的に中国人の教員と外国人の教員は別の枠なんでしょうか？

A：北京大学では，完全に外国籍のままで教職を執るのは本当に稀なことです。中国の大学には，複雑で厳格な人事制度があります。資金的に余裕があるからといって，新たにポストを置くということはできませ

ん。ここ何年かは，ある方法で外国籍の方を教授としてお呼びしています。外国の本務校と北京大学とで同時に教えていただくという形式です。北京大学では，1年の中で3ヶ月間とか半年とか，教えていただければいいということです。このことで，たくさんの最先端の知識がもたらされると考えています。このような教員も基本的には中国人で，外国の国籍を取っているというだけなのです。例えば，数学系の田剛教授，この方を「長江教授」として招聘しているのですが，この「長江教授」というタイトルを得た人は，年俸が50万元です[8)]。純粋な外国人が中国で教員になるということはやはりとても少ないのです。最近，「海外講学計画」というものができて，これは海外から教員を北京大学に招聘するものですが，1学期間とか1年間とかです。中国には複雑な給与制度・住宅問題などがあるので，外国の方が中国で教職を執られるのは難しいのです。

Q：もう1つお伺いしたいのは，修士で学術タイプと専門タイプがあるということでしたが，これは一人の教授が両方を教えるのでしょうか，それとも専門タイプだけを教える教員，学術タイプだけを教える教員がいるということでしょうか？

A：教員には区別はありません。教員は研究生院が管轄しているのではなく，系が管轄しているので，教員は学部・専門タイプ修士・学術タイプ修士・博士の全ての学生を教えることができます。

Q：それって難しくないですか？

A：とても難しいです。中国のことはみな複雑です。これをはっきり説明することも難しいです。

Q：わかりました。どうもありがとうございました。

A：ですから中国はいつも無秩序という気がします。

司会：もう時間も過ぎましたので，これで終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。

訳者注

上掲の原稿は，事前に用意されたものであり，当日の講演はこれに沿って行われた。原稿だけではわかりにくかった内容が，講演ではっきりとした部分もあるので，その点も含めて注記する。

1）「研究生院」というのは，全学の大学院生を管理する部門で，具体的な教育そのものには関与しない。実際の教育は，日本の学部に相当する「系」・「院」が担当する。

2）講演では，何度も「協音（xie2yin1）」という言葉が用いられた。これは音を合わせるという意味で，そこから同音異字の言葉を使って2つの意味を同時に表現する方法を指したものである。海外留学からの帰国組を表す「海帰（hai3gui1）」という言葉と同音の「海亀（hai3gui1）」，それに対して留学経験のない国内組を「土鼈」と呼んでいるわけであるが，「鼈」はスッポンのことなので，「海亀」・「土鼈」はどちらも亀の一種といえる。そして「土鼈」の「土」という文字には泥臭いというニュアンスがある。この「協音」については，講演前の雑談においても，北京大学の改革の中で，かつて学部相当の部局であった「系（xi4）」は，ほとんどが「院」という名称に変わったが，「中国語言文学系」・「歴史学系」・「哲学系」だけは「系」のままになっており，これは「系」が無くなるということを中国語で「没系（mei2xi4）」と表現できるのだが，同音の「没息（mei2xi1）」（先の見込みがない・将来性がないというような意味）となるからで，北京大学の中で最も古い歴史を持つこの3つの「系」が無くなれば，北京大学の未来が無くなるというような議論があり，「系」のままで残されたということが話題となっていた。

3）「教育部」とは，日本の文部科学省相当の行政機関である。

4）専攻の名称は，固有名詞なので翻訳はせず，字体のみ現在日本で使用されている字体に変換した。「法律碩士」という専攻の「碩士」は，修士の意味である。「社会工作」という専攻は，福祉関連のものである。

5）中国には北京大学と同レベルの大学が存在しないので，自校の卒業生が大学院に進学しないとなると，レベルが下の学生しか集まらないことになるということである。中国の一流大学としては，北京大学と清華大学とが並び称されるが，この2つの大学は性格が異なっている。北京大学は文科理科の総合大学であり，清華大学は工科大学という性格が強い大学である。

6）優秀な学部生は，「政治」というイデオロギー色の強い科目の勉強をするよりも，専門の勉強に力を注ごうとする。このことがさらに「政治」が必須科目の中国国内の大学院受験を回避する傾向を強くさせるという。

7）推薦による入学者はすべて学術タイプ修士である。光華管理学院を例にとると，推薦による入学者だけが学術タイプ修士で，受験による入学者はすべて専門タイプ修士とのことである。

8）「長江教授」とは，中国の教育部の後援を受けて，香港の「長江実業集団」という企業グループが資金を出しているポストで，「長江学者」とも呼ばれている。「長江学者特聘教授」と「長江学者講座教授」との2種類があり，これらのポストに就くと，少なくとも3年間，給与が支給され，多額の研究費も与えられる。この制度は，2004年に始まった時には，主に外国で働いている学者が帰国して教育に携わることを促進するためだったが，現在では中国国内で学んだ教員も，とりわけ文科系で，このポストに就くようになった。